

機動性高めドローン運用

国際協会 災害、警備 専用車両で即応
お披露目

東庄町でドローン教習所を運営する一般社団法人国際ドローン協会(東京都)は、災害支援や巡回警備などさまざまな現場に即応できるドローン業務専用車両「高機動型ドローンポーター」をお披露目した。車両には、車両から遠く離れた場所でのドローン操作・監視を可能にするドローンドックを搭載。すでに7月のロシア・カムチャツカ半島付近での巨大地震に伴う津波警報に関連して出動、音声による注意喚起を展開しており、今後もさまざまな場面での活用が期待される。(中瀬健太)

東庄

町内のドローン教習所「東庄町ドローンパーク」で行われた発表会では同協会や同町の関係者が登壇。同協会と新明工業(愛知県)が共同開発した車両の性能について説明した。同協会代表理事の榎本幸太郎さんは「ドローンは災害現場などにいち早く急行する機動性が重要。車にドローンのユニットを直接取り付け現場に向かい、撮影することが非常に有益だと考え車両を開発した」とあいさつ。新明工業側は「今後も連携を取りながら世の中に役に立つ車を作っていきたい」と展望を示した。



「高機動型ドローンポーター」の性能などについて説明する榎本さん＝東庄町

町内のドローン教習所「東庄町ドローンパーク」で行われた発表会では同協会や同町の関係者が登壇。同協会と新明工業(愛知県)が共同開発した車両の性能について説明した。同協会代表理事の榎本幸太郎さんは「ドローンは災害現場などにいち早く急行する機動性が重要。車にドローンのユニットを直接取り付け現場に向かい、撮影することが非常に有益だと考え車両を開発した」とあいさつ。新明工業側は「今後も連携を取りながら世の中に役に立つ車を作っていきたい」と展望を示した。

黄金色「勝中米」収穫 2年生70人 実り感じ作業に汗



汗を流しながら稲を鎌で刈り取る勝浦中の生徒ら＝3日、勝浦市

勝浦市立勝浦中学校の2年生約70人が3日、市内の大森地区の田んぼで稲刈りを体験した。ジャージー姿の生徒らは、自分たちで作付けしたコシヒカリの苗が約4カ月で黄金色に実ったのを感じながら「勝中(カッチュウ)米」の稲穂を鎌

ドローンポーターには、DJ-1社製のドローンの離着陸や充電が可能なドローンドックが2台搭載されている。遠隔地からの操作によりドローン2機の交互飛行が可能で、バッテリー切れの心配がなく長時間の巡回や調査・点検業務を実行できる。今後取り組むドローン事業について向後喜一朗副町長は、児童生徒の下校を見守るため、現場に配置するだけで遠隔地から操縦可能なドローンドックとドローンを町内の小中学校各1校に2機ずつ設置すると説明。国の未来技術社会実装事業に採択された「利根川を利用したドローンによる物流ルート設置事業」の準備を進めていることも報告した。

生徒たちは、水田約10アを提供しているコメ農家、

渡辺浩臣さん(72)から稲の刈り方や、穂の束を作って竹ざおに天日干しする「小田掛け」までを教わり、黙々と作業を行った。同校などによると、約480キ(8俵分)の収量が見込まれ、一部は10月上旬に、市内の小中学校などの学校給食として提供される。白石華波さん(14)は「稲刈りは初めて。私たちが普段食べているおいしいご飯は、農家が大変な思いをして生産してくれたおかげなんだと身をもって経験できた」とうなずいた。島村淳さん(14)は「貴重な体験となった。稲刈りしてその苦労やありがたみを実感できた」。

市民会館解体【茂原市】定日開会。市は、と旧中央公民館の契約締結案や基金積み立てなど76万円を追加一般会計補正年度の各会計決算計16議案を提案。会期は18日までは10月12日は次の通り。(10日) 河野 英美

定数、報酬で市民アン

鴨川市議会は議会改革の一環として、市民に議員の定数と報酬に

諮問を受け、正副議長と除く市議15人が特別調査